

本コーナーでは漢方の専門医が日常診療で会う患者さんを例に、漢方処方を決定する際の留意点と、漢方薬の服用によって症状が改善していく経過を解説します。さて、今回はどのような症状にお困りの方なのでしょうか。



患者プロフィール

Hさん・46歳・女性

- ・Hさんはアパレルメーカーの管理職。銀行員の夫が単身赴任中のため現在一人暮らし。
- ・中学生頃までアトピー性皮膚炎があり肌は弱いほう。最近、肌の乾燥が目立ち、痒みもある。くすんだ感じもあって、部下には「日焼けしたんですか」といわれ、ショックを受けた。
- ・皮膚科を受診すると肌が少し荒れているが積極的に治療する必要はないといわれてしまった。しかし、それでも気になるので、漢方治療の評判を聞いて漢方クリニックを受診した。

漢方よもやま診察室

〔カルテ 8〕 ストレスによるカサカサ肌、炎症性の痒み

話し手：花輪 壽彦 北里大学東洋医学総合研究所 所長

診断(四診*による診断)から処方まで

*問診、望診(見ることによる診断。舌診など)、切診(手で触れる診断。脈診、腹診など)、聞診(聴覚、臭覚による診断)の四つをいう。

花輪：いかがされましたか？

Hさん：最近肌がカサカサで痒みもあって、お化粧のりもとても悪いです。人と会うことが多いので困っています。

花輪：肌の乾燥と痒みでお悩みなんです。最近お仕事とか生活で何か変化がありましたか？

Hさん：このところ上司から売り上げが悪いとプレッシャーがきつくて。イラ

イラしやすくなったり、眠りが浅く夜中に目が覚めてしまったり……。夫が単身赴任中なので食事を適当に済ませていることも原因かもしれません。

花輪：月経のほうはいかがですか。

Hさん：時々こない月があったり、量が少なかったりします。

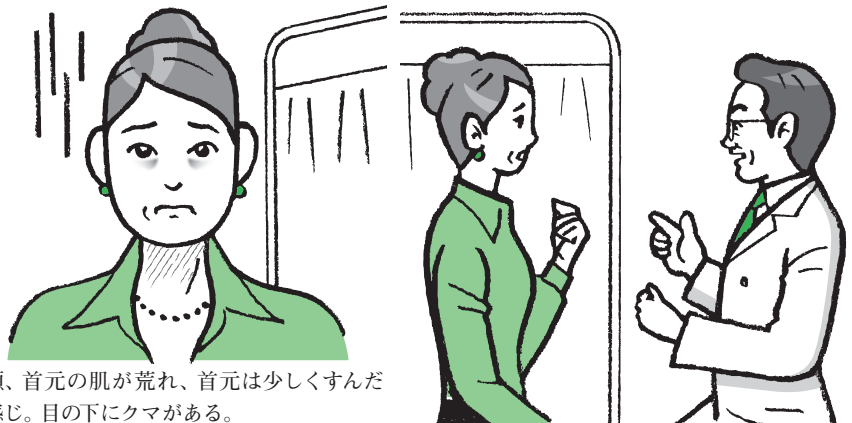
花輪：そのほか、何か身体の不調はありませんか。髪の毛が抜けやすいとか、爪が割れやすいとか。

Hさん：確かに最近、爪がよく割れることがあります。

花輪：お仕事のストレスと多少年齢的なことも重なって、身体全体の血流が悪くなっているようです。そのため肌に潤いがなくなっているのだと思います。身体の内側から体全体の調子を整える、温清飲という漢方薬をお出ししますので、しばらくのんでみてください。



洪脈(血流がスー、スーと流れないで、グジュグジュと流れている感じの脈。血が不足していると起こる。)



頬、首元の肌が荒れ、首元は少しくすんだ感じ。目の下にクマがある。

温清飲を処方する

温清飲の「温」は温める、「清」は清める、熱を冷ますの意味です。つまりこの漢方は体の内側を温めて、血行を良くし、表面の熱感をとる薬です。温清飲は、当帰、川芎、芍薬、地黄の四つの生薬で構成される四物湯と、黄連、黄芩、黄柏、山梔子で構成される黄連解毒湯の合方です。

四物湯は血液によって運ばれる栄養が低下した「血虚」を改善する基本処方で、カサカサ肌や貧血、冷え症、月経不順のほか、不安やイライラ感、抜け毛、爪割れなども治療の目安になります。一方、黄連解毒湯は熱を冷ます清熱薬の代表薬で、炎症性の発疹や痒み、顔面紅潮などのほか、やはり不安やイライラ感などの改善にも用いられます。

漢方医学の「血虚」は現代医学の「貧血」とは少し異なります。漢方の「血」は身体に必要な栄養をもたらす、身体や臓器を形づくるもので、栄養が臓器に運ばれることで、メンタル面や情緒の安定にも関係する概念です。血虚はその血が不足し循環が悪い状態を示します。

正常な皮膚は循環する血液によって十分な栄養、水分が供給されていますが、血虚で血めぐりが悪くなると、皮膚が乾燥し、刺激に対して敏感になります。そうすると炎症、痒みが起こりやすい状態になってしまうのです。

温清飲は、Hさんのようにカサカサと痒みの両方あるストレスに伴う肌症状に大変適した治療薬なのです。

ただし地黄が入っていますので、胃腸の弱い人がのむと胃がもたれたりするので注意が必要です。

温清飲

四物湯

当帰、川芎、芍薬、地黄

黄連解毒湯

黄連、黄芩、黄柏、山梔子

処方して1ヶ月後

Hさん: 肌の痒みがなくなって、カサカサ感も少しよくなったようです。いつの間にか眠りも深くなり、朝も気分よく起きられます。

花輪: それはよかったですね。少し顔色もよくなっているようですよ。

2ヶ月後

部下: Hさん、お化粧品変えました？

Hさん: あら、今までと同じよ。

3ヶ月後

Hさん: ねえあなた、今度はいつ戻れるの？ 帰ってきたら、温泉でも行きたいわ。私も休みをとるから。

夫: 来月には帰れると思うけど、どうしたんだ。随分元気そうだな。

Hさん: うん、ちょっとね。



花輪先生から店頭へのメッセージ

扁鵲という中国の伝説的な名医が、「病の心（病気の様子）は大表（体表）に見わる」という言葉を残しています。これは、様々な病気は皮膚の症状として現れるため、皮膚に異常があれば、皮膚以外の病気も必ず想定しなさいというものです。言い換えれば、漢方における望診、すなわち患者さんの顔色や皮膚の色、あるいは表情、所作を十分に観察して、身体的異常の有無を判断することはとても大切です。

お客様が来店されて肌荒れやにきびの症状で外用薬を求められた時にも、一応、生活環境の変化や体調についてもお聞きし、肌症状の原因を幅広く考えてみることをお勧めします。精神的なストレスや内臓の不調が肌荒れの原因になることはよく知られていますから、体の内側から皮膚疾患を治すという考え方も、ぜひ忘れずに取り入れていただきたいと思います。

処方名	構成生薬	効能
温清飲	当帰、川芎、芍薬、地黄、黄連、黄芩、黄柏、山梔子	体力中等度で、皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの次の諸症：湿疹・皮膚炎、神経症、血の道症、月経不順、月経困難、更年期障害